

「三確認主義」

1. からだの触れ合いの事実があるか

身体的触れ合いのないものは、パーソナル・ファウルとして取り上げるわけにはいきません。からだのどこの部分が触れたかを確認する必要があります。

2. その触れ合いを起こした責任がどちらにあるか

責任の所在を見極めるためには、その触れ合いを起こす前の状態（位置や距離など）を把握しておく必要があります。どちらも触れ合いを避けようとしてやむを得ず触れ合いを起こしてしまったような場合は、責任はどちらにもないので笛は鳴らさずにプレーを続けさせたほうがよい場合が多いでしょう。触れ合いの責任の所在をしっかりと確認することが必要です。

3. その触れ合いによってプレーに影響があったか

影響があったかどうかは、それによってどちらかのプレーヤーが有利・不利になったりする状態をいいます。ちょっと触れただけで何事もなかったようにプレーが続けられる状態では、不利になったことにはならないので、笛を吹く必要はないわけです。影響の有無、あるいは有利・不利を確認することが必要になります。

以上のように、起こったからだの触れ合いについて

(1) 事実 (2) 責任 (3) 影響の3つを確認していくことを「三確認主義」と呼んでいます。

注意しなければならないのは、プレーは一瞬のうちに起こり、一瞬のうちに次のプレーに移ってしまうということです。これら3つの原則をゆっくりと順序立てて考えていると、笛を鳴らす機会はなくなってしまいます。瞬間的に判定をくだすことは、審判にとって過酷ともいえる仕事なのです。そのためには、接触が起こる前に両方のプレーヤーの位置・状態を把握し、プレーがどのように展開するかについての予測をいくつか立てておくことが必要となります。そして、自分自身が実際にプレーをして、攻撃や防御などプレーヤーの感覚を養っておくことも役に立ちます。

「四原則」

1. ボクシングイン

- ・常に10人のプレイヤーを2人で挟んで見る
- ・必要に応じた伸縮性で2人のブラインドを作らない
- ・フロアバランスとプレイのポイントを早くつかむ

2. オールウェイズ

- ・ムービング
- ・良い位置、良い角度を求める
- ・立ち止まらない、目だけでプレイを追わない
- ・常に確認、判定できる位置へ動く

3. ペネトレーション

- ・良い角度から見るためにも、足も気持ちも踏み込む
- ・近づいて確実に見る
- ・説得力ある

4. スペースウォッチング

- ・コンタクトを確認する上での基本である
- ・悪い判定の70%以上が悪い位置からの判定である

(出典：「詳解バスケットボールのルールと審判法」 晨 匡一郎・瀧島幸雄・阿部哲也著、大修館書店、2001)